

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-1	理工学部の理念 自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する。 <div style="text-align: right;">(Webサイト)</div>	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>	
A-2	理工学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上) 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎から応用まで相互に連携しつつ、常に先進的でレベルの高い研究を行う。また、確固とした専門的知識と研究技法を身につけ、基礎知識を課題解決に繋げる柔軟な思考力を養うとともに、未知の問題を発見し挑戦していく創造力あふれる科学者・技術者を育てる。さらに、専門的能力に加えて幅広い教養教育およびキリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備え、国際的に活躍し社会貢献できる世界市民を育成する。 数理学科 自然科学を学ぶ上で不可欠であり、自然科学のどの分野においても極めて重要な役割を果たしている数学を、理論と応用の両面から教育・研究し、柔軟で論理的な思考能力を持つ人材を育成する。数学の基礎理論を身につけ、数学的能力、コンピュータを思考の道具として駆使していく能力、数学の応用能力を養い、理系はもとより文系の分野も含めて幅広い分野でその能力を発揮できる人材を育てる。 物理学科 物理学の理解に必要な数学の基礎知識と応用力を習得し、力学・電磁気・熱現象等のマクロな物理学から量子力学、相対性理論、統計力学等の現代物理学までの物理法則の深いレベルでの理解をはかる。実験や演習を通して基礎と応用の両面で論理的思考能力と専門性を必要とする職業に対応できる能力を培うと同時に、視野を広め、既成の概念や常識に挑戦し、他の学問領域に進出していくことができるだけのチャレンジ精神と創造性を有する人材の育成をはかる。 先進エネルギーナノ工学科 グリーンイノベーションの基盤となる、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、基礎から応用までの幅広い知識を学生に獲得させる。物理学・化学・数学の学習をベースに、次世代のエネルギー創生、蓄積、輸送、変換をナノテクノロジーを駆使して実現する創造力(イノベーション力)を養い、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことのできる人材を育成する。 化学科 化学の基礎である物質の構造・物性・反応について、とくに物質の構造や機能の分子レベルでの解明法、既知・新規機能物質の合理的な合成法等を教授し、将来、研究・開発に携わることのできる優れた人材を育成する。さらに、現代社会のニーズに応じた明瞭な社会貢献を目指し、既存の化学から新領域へ挑戦できる人材を養成する。 環境・応用化学科 地球環境問題に関連するさまざまな課題に対して化学を基軸としたアプローチによって柔軟に取り組み、国際的に活躍できる個性豊かな人材の育成を目指す。具体的には、原子・分子の世界から地球レベルの問題まで幅広い知識と深い専門性を有し、多角的な視点をも身につけることによって、環境・応用化学分野に深い関心を抱き、新しい課題に挑戦する情熱と知恵を持った人材の養成をはかる。 生命科学科 環境、食糧、エネルギー、医療など、21世紀の重要課題の解決および環境との調和を保つ社会構築に貢献する研究、教育および社会連携を目標とする。広い視野にたった倫理観を有し、生命現象を分子レベルから理解する基礎能力を修得し、応用できる人材を養成する。 生命医化学科 先端医療や製薬など、ヒトの疾病治療や健康維持に貢献するために、医化学を共通の基盤として生命科学や情報学を基礎医学系分野に応用できる人材の養成を目指す。ヒトの細胞やマウスなどの哺乳動物モデルを用い、生命科学や情報学の知識および生命に対する健全な倫理観を有する人材を育てる。	理工学部の目的(Webサイト上) 1. 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎的研究を中心におきながら応用も視野に入れ、それぞれの分野が相互に緊密な連携を保ちながら常に先端的でレベルの高い研究を行う。 2. しっかりとした自然科学の基礎知識と能力を身につけ、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力を養い、未知の問題を発見していく能力と、その未知の問題に果敢に挑戦し、解決していくことが出来る能力に優れた、創造性に溢れた人材を育成する。 3. 自然科学・科学技術の知識と能力とともに、幅広い教養を養い、キリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てる。 4. 社会との強い繋がりを絶えず念頭に置き、自然科学を通して社会に大きなインパクトを与え、また、その技術的応用を通して、人類の進歩に寄与することが出来る教育と研究ならびに人材の育成を行う。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

<p>情報科学科 健全な情報化社会をリードし、新たな情報技術を創造できる人材の育成を目指す。特に高度情報化社会に必要なソフトウェアと情報ネットワークを中心とした技術の開発・研究に従事する技術者の養成を行う。また、情報科学以外の自然科学・社会科学の分野とも繋がりを強め、情報通信産業、ソフトウェア産業及びコンテンツ産業に高度な知識を持った人材を供給し、新しい科学・技術・文化の領域において社会貢献を果たす。</p> <p>人間システム工学科 人間をトータルシステムとして探求する工学的視点を中心に据え、メディアやロボティクス等の魅力ある動機付けのもとに、その基礎となる数理科学を確実に身につけさせる。演習を重視したカリキュラムにより、感性・脳科学、信号処理、制御、センサなど現実に即した課題の学習・研究を通して論理的思考力・問題解決力・自己管理能力・リーダーシップ等を兼ね備えた学生を輩出し、新しい文化の形成において社会貢献を果たす。</p>	
めざす学生像	変更の有無
<p>関西学院大学のスクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民をめざし、自然科学・科学技術に関する専門能力に加え、幅広い教養とキリスト教主義教育に培われた豊かな人間性と倫理観を備え、国際的に活躍し社会貢献できる学生</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)	変更の有無
<p>関西学院のめざす人間像である“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成するために、自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。</p> <p>1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢</p> <p>(1) 自らを律する強さと倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。</p> <p>(2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の発展に貢献しようとする意欲を持っている。</p> <p>2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性</p> <p>(1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。</p> <p>(2) 専攻分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。</p> <p>(3) 専攻分野における基礎的な技能を修得している。</p> <p>(4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。</p> <p>(5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。</p> <p>3. [表現・技能] 実践的な学習技能とコミュニケーション力</p> <p>(1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する技能を身につけている。</p> <p>(2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。</p> <p>4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力</p> <p>現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

2018年度 自己点検・評価【理工学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「理工学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 理工学部の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「理工学部の目的(Webサイト上)」は、A-2「理工学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「理工学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「理工学部の目的(Webサイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き(どこで)	自己評価委員会での審議を経て、教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年秋学期開始後
	検証エビデンス	教授会記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法	自己評価委員会での審議を経て、教授会において決裁・承認した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:【確認5】については、全学の動きに合わせて行う予定) <input type="checkbox"/>その他() </div> <div style="margin-right: 10px;"> </div> </div>
	判断根拠	教授会記録
	周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 幅広い視野と柔軟な思考力を持ち、自然科学・科学技術の知識を生かして社会貢献できる人材の育成。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたって基礎知識と能力を修得し、多様な教養教育により人格形成に努めるとともに広い視野を養い、社会のいろいろな分野で活躍することができる人材を育成する。	
目標2	(タイトル) 実践的・体験的教育による実社会の課題解決のための応用力養成。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 実験科目、演習科目、卒業研究を重視し、これらの科目を通して、自然科学・科学技術の最新の研究に携わる機会を持ち、自然科学の真理を探究していくことの楽しさと感動を身近に体験するとともに、自然科学の知識や能力を社会に活かしていくための応用的能力を養う。	
目標3	(タイトル) 自然科学・科学技術の知識を生かして、国際的に活躍できる人材の育成。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 英語の能力は、自然科学・科学技術を学ぶ上で必須の要件であり、研究の成果を世界に向けて発信していくためにも不可欠である。英語に強い理系の人材育成を目指し、英語教育に力を入れる。	

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き(どこで)	自己評価委員会の審議を経て、教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年秋学期開始後
	検証エビデンス	教授会記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年9月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(→(予定: 年 月))
検証プロセス	検証方法	自己評価委員会にて、教育研究目標等時代のニーズに合った内容かどうかチェックし、課題を整理した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p>理工学部における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、言語教育科目、自由選択科目にて構成し、専門教育科目は各学科専門の基礎的科目、発展的科目、実験・演習科目、卒業研究科目(数理科学科は特別演習)、自由選択科目にて構成する。各科目群は理工学部ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。</p> <p>[総合教育科目] 「キリスト教科目」 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。</p> <p>[言語教育科目] 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。</p> <p>[自由選択科目] 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広く教養と視野を身につけさせる。</p> <p>[専門教育科目] 「基礎的科目」 主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。</p> <p>「発展的科目」 主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。</p> <p>「実験・演習科目」 各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。</p> <p>「卒業研究科目(数理科学科は特別演習)」 4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的發展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解した上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組むことにより、現代社会における問題解決力を修得させる。</p> <p>[自由選択科目] 主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広く教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、学位授与方針、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き(どこで)	カリキュラムWGで検討し、学系長会議での審議を経て、教授会において報告・承認している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年4月
	検証エビデンス	教授会記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年4月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	カリキュラムWGで検討し、学系長会議での審議を経て、教授会において報告・承認している。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
		<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
	判断根拠	カリキュラムWG及び教授会記録
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多面的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>(略)</p> <p>理工学部アドミッション・ポリシー</p> <p>自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生の入学を期待します。</p> <p>＜理工学部が求める学生像＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生 ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 <p>以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー</p> <p>1. 一般選抜入学試験</p> <p>一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。</p> <p>一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。</p> <p>全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。</p> <p>理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語(学部個別日程のみ記述式含む)」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。</p> <p>一般入学試験開学独自方式日程は、英語・数学型、開学英語併用型、開学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。開学英語併用型・開学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで可否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。</p> <p>また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p> <p>2. グローバル入学試験</p> <p>グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。</p> <p>① 国際貢献活動を志す者のための入学試験</p> <p>国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問・適性面接審査では日本語および英語による面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関心興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。また、面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに学ぶ意欲、人間性を評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

① 院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

2) グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3) グローバル+キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、そして高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をもつて受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

(略)

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥ 指定校推薦編入学

人間福祉学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

教育学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクールにおいて、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

3) 理工学部 公募制推薦入学試験

物理学科

物理学科では、自由な発想と幅広い思考を武器に様々な問題に取り組める人材の育成を目指すにあたり、本入試において、物理学や天文学の体系的な知識・技能の習得とその活用に高い情熱を有する者を求めます。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

生命科学科・生命医化学科

生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部へ入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。

審査においては、小論文審査を行い、論理的な思考力と表現力の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに生命科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

生命医化学科

生命医化学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部へ入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命医化学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに生命医化学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

人間システム工学科

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるユビキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもとに本公募制推薦入試では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募ります。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステムの制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。

審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長C.J.L. ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

(略)

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかりと学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にAO入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真理の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくれることを願っています。

<数理科学科>

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質の探求、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、AO入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<物理学科>

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実は、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとする。こうして得られた重要な原理は、理解しなかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方・方法が、単なる技術改良に留まらない、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっかりと学ぶことで、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぼうとする者には、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をもとに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる／意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科で進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

＜先進エネルギーナノ工学科＞

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、エネルギーを創る、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今度のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

＜情報科学科＞

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(CやJavaなどによるプログラム、スマートフォンアプリ、ホームページ、ゲーム等)や、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

＜人間システム工学科＞

ユーザの好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるロボティクス技術やユビキタス技術の研究分野を強化します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもと、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、アート幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造性豊かな学生を求めます。理系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所からの推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

(略)

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	入試委員会(委員会・学長)
	検証手続き(どこで)	教授会での審議を経て、入試委員会で承認する。
	決定・判断時期(いつ)	随時
	検証エビデンス	入試委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年5月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	理工学部入試委員会にて、時代のニーズに合った内容かどうかチェックし、課題を整理した。(4月、5月の教授会で審議し5月、6月の入試委員会で承認した。)
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div>
	判断根拠	「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(募集要項)	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-6

学生支援に関する方針	変更の有無
<p>理工学部の理念に基づくアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに則り、学生一人一人が十分な教育を享受し、学位を取得し、さらには社会にはばたくために、修学・生活・進路において、適切な支援を行う。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
<p>アカデミック・アドバイザー制度 本学部では、担任教員がアカデミック・アドバイザーとなり、教学上の問題にきめ細かく対応している。 留年者及び休・退学者の状況把握と対処に関しては、理工学部で導入されている担任制を利用して、休学や退学を希望する学生や成績不振の学生に対する、担任による個別の相談と実態の把握に努めている。</p> <p>TA・RA・SA・メンターの活用 本学部では、教育補助者としてTAとLAを活用した取組を実施している。 基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎的な知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させるため、実験・演習科目を設置している。これらの実践を重視する科目では、個別指導を通じてきめ細かい教育を行うことが有効であるため、本学大学院生をTAとして雇用・配置し授業補助業務に従事させている。 また、自然科学・科学技術分野における共通言語である英語の修得を目指し、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させるために、低学年次を中心に言語教育科目を設置している。英語能力は、自然科学を学ぶ上で必須要件であり、研究の成果を世界に向けて発信していくためにも不可欠であるため、英語の授業において、英語能力に優れた本学部生をLAとして雇用・配置し、ネイティブ教員との会話や学修が困難な学生を支援することで、初年次の英語学修をスムーズに進められるよう注力している。</p> <p>修学支援</p> <p>リメディアル教育 数学基礎力テストの実施(理工学部) 理工学部では、入学後、数理科学科、環境・応用科学科以外の学生に数学基礎力テストを受験させている。合格点に達しなかった学生には合格するまで追試(全4回)を受けさせ、理工学部生に不可欠な数学基礎力を育成している。</p> <p>クレセントチューターの設置 アカデミックcommonsに各学科の大学院生をクレセントチューターとして配置し、気軽に勉学の仕方、レポートの作成法などのアドバイスを受ける事ができるようにしている。</p> <p>大学や学生支援機構の奨学金制度を必要な学生が申請できるよう、広く告知している。</p> <p>障がいを持つ学生など支援を必要とする学生には、学生総合支援センターと密に連携しながら、障がいの内容に対して適切な支援が受けられるように、学生個別に対応している。また、入学前や学期の始め等に、特に実験・演習科目において、新たに支援を希望する学生が居ないかアナウンスを行っている。 全体一律な支援だけではなく、必要であれば、「障がい学生支援に関する基本方針」および「障がい学生支援実施基準(ガイドライン)」に準じ、「合理的な配慮」の範囲内で個人個人に特化した支援を行う。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
<p>生活支援</p> <p>学生の相談に応じる体制 相談に応じる体制の説明を新入学生ガイダンスにおいて行っている。何か相談を希望するときは、担任、各学科の学生担当教員、副学部長(学生担当)、事務、その他誰でも相談し易い教員、カウンセリングルーム、先輩、などまずは一人で抱え込まないようにという指導を行っている。 特に、理工学部では担任制を導入しており、担任が学生生活で困った事や相談事が発生していないか等を積極的にヒアリングしている。成績配付時に相談内容を伝える学生も多い。相談等があった場合、担任が対応したり、場合によっては、担当教員や事務、さらには学生支援総合センターやカウンセリングの利用を促す場合もある。 理工学部では、各学科の特殊性があるため、各学科に学生委員を置き、相談を受けた担任教員と協力して問題解決にあたるシステムを構築している。もちろん、問題が大きい場合には、副学部長(学生担当)、学部長補佐(学生担当)も協力し、対応する。</p> <p>ハラスメント防止に向けた取り組み ハラスメント防止に向けた説明、ハラスメントを受けた場合の相談窓口などの説明を新入学生ガイダンスにおいて行っている。 さらに、ゼミ単位で「キャンパスハラスメントミーティング」を実施し、報告書を提出する事を義務づけており、ゼミや研究室という狭い世界でのハラスメント防止に取り組んでいる。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
<p>進路支援</p> <p>キャリアセンター主催で、3年生対象に理工系学生対象キャリア支援プログラムが開催されている。2015年度は5月から12月までの間に、以下6回のキャリアガイダンス、「理工系学生の進路を考える」、「筆記試験対策」、「自己分析とエントリーシート作成」、「業界・企業・職種研究」、「面接対策～採用担当者の視点を知らう～」、「理工系出身者の仕事を知る」が行われている。2月、3月には、「エントリー直前！フォローアップセミナー」、「学内企業説明会」が開催される。 また、5月中旬～7月上旬の期間に「理工系3年生対象 進路面談」が、学生個人と面接官との間で行われ、大学院進学、就職の両方の可能性について幅広くアドバイスを行っている。これらに加え、文理共通の「インターンシップ応募説明会」、「SPIテストセンター 模擬試験」、「SPI対策フォローアップセミナー」、「学内企業説明会」なども開催され、幅広い観点から学生の進路指導を行っている。 さらに、教員や理工学部OBを通して、企業の説明会が複数回開かれている。特に、これらの説明会は、学科や分野にある程度特化した説明会となる。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが) 教授会(議長:理工学部長) 検証手続き(どこで) 学系長会議での議論を経て、教授会において決裁または承認または報告している。 決定・判断時期(いつ) 毎年秋学期開始後 検証エビデンス 教授会議事録	
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年月)	
検証プロセス	検証方法 学系長会議にて、案件発生の都度、体制上の不備等をチェックし、課題を整理した。理工学部学生委員会を10月に開催し、学生支援に関する課題をまとめ、対応方法の適切性等を総合的に検討した。 検証結果 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。(検証後、評価専門委員の指摘を受け、就学支援の中のTA・RA・SA・メンターの活用を見出しを修正。A票変更点記述シートを作成。) <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input type="checkbox"/> 既に見直した() <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
判断根拠	学系長会議記録及び各関係諸会議記録	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

A-7

教員像	変更の有無
<p>理工学部は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”を自然科学・科学技術分野で実践し、国際的に活躍する世界市民を育むことを目指している。また、「愛をもって互いに仕えなさい」を学部のモットーとし、人間教育にも力を入れている。これらの学部の使命を達成するために求められる教員像を、次の通り定めている。</p> <p>(教育者として)</p> <p>キリスト教主義教育の精神を理解し、座学だけでなく実践的教育を通して学生の学修意欲を高め、学生の志や夢の実現に向けて適切に指導し、学生の成長を喜びとして誇りと情熱をもって教育に取り組む教員</p> <p>(研究者として)</p> <p>専門分野において先端的研究を行い、学界や国際社会から高い評価を受け、社会に貢献し、かつ社会から尊敬される教員</p> <p>(組織の構成員として)</p> <p>自らの優れた知識・能力を活用するとともに、他の教職員と協調して理工学部の発展、継続に寄与し、尊敬、信頼を得る教員</p> <p>(人として)</p> <p>学識、識見はもちろん、人望、人徳、誠実さを備えた人として魅力ある教員</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

無しの場合どのように設定するか?	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針	変更の有無
<p>生き生きとした魅力ある学部として、教育・研究の活力を保ち、持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編成方針を次の通り定めている。</p> <p>①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。</p> <p>②女性教員を積極的に採用し、2020年4月時点で各学科の専任教員として少なくとも1名の女性教員が在籍するようにする。</p> <p>③任期制助教枠を利用して、若手教員を積極的採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。</p> <p>④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各学科の特色を出すように配慮する。</p> <p>⑤英語教育充実のため、ネイティブ教員を積極的に採用するとともに、教員間の連携体制を整備する。</p> <p>⑥体験的教育の充実を図るため、実験や演習を補佐する教職員等を各学科に配置する。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 チェック欄

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教授会(議長:理工学部長)
	検証手続き(どこで)	人事案件が発生したとき、学系長会議での審議を経て、教授会において決裁・承認または報告している。
	決定・判断時期(いつ)	人事案件発生時の都度
	検証エビデンス	教授会記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	自己評価委員会で検討し、学系長会議での審議を経て、教授会において報告・承認した。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	教授会記録 <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input checked="" type="checkbox"/> その他(クロスアポイントメントの導入について継続して検討する)
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(未設定)	

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

(ご参考)

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ A-6 アカデミック・アドバイザー制度について、適切に見直しがされており、評価できます。(A)
- ・ 全体として評価できます。
- ・ A-6 生活支援の項目の、ゼミ単位での「キャンパスハラスメントミーティング」の実施及びその報告書提出の義務づけは、先進的で大変評価できます。
- ・ また、同じ項目になりますが、学生は実験や研究発表等の準備のため学内でいちばん研究室に在室する時間が長くなる傾向にあると思われますが、その場合の学生に対する心身の健康支援、保健衛生・安全面での配慮についても記述していく必要が望まれます。(B)
- ・ 適切性の検証が実施されており、評価できます。(D)
- ・ 適切に自己評価が行われており、評価できます。学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果が測られることが期待されます。(G)
- ・ 理念、目的、教育研究目標などの設定、確認は入念かつ適切に行われていると考えられます。
- ・ A-6 生活支援の項目で「担任制」について言及されておりますが、これは研究室に配属されるまでのことであるのか、研究室に配属後にも適用されるのかを明確にされた方が良いと思います。前者の担任制は多くの大学に見られますが、後者の担任制は特長的であると考えます。
- ・ 但し、A-7 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認において、適切性の決定・判断の時期が「人事案件発生の都度」とありますが、これでは採用時にのみ検証して、以降はチェックすら行わないようにとられかねないと思います。「年度末」のような定期的な意味合いをもつ表現の方が良いのではないのでしょうか。(H)
- ・ アドミッション・ポリシーの見直しが行われたことは評価されます。(I)

＜評価専門委員・所見記入欄＞

- ・ 設定された体制、プロセスに基づいて適切な検証がなされています。
- ・ 「学習成果を測定するための評価指標」は全学で検討されているものに加えて、学部独自のものがあれば設定することが望まれます。
- ・ クロスアポイントメントは引き続き検討され、学部にとって有効なたちで制度化することが期待されます。(A)
- ・ 適切に自己評価が行われていると判断できます。(B)
- ・ 適切に検証されています。クロスアポイントメント制度に関しては引き続き検討を進めていくことを期待しています。(C)
- ・ きめ細かい教育を提供しようと努力されており、検証も適切に行われていると考えます。しかし、定員充足が困難な学科が少なくないことに対する分析なども、自己点検・評価に関わる問題であり、受験生のニーズの把握に努めた上での学部・学科再編に期待したいと考えます。(D)
- ・ 各種方針等の検証は適切に行われています。学修成果を測定するための評価指標の開発とそれに基づく測定については、大学全体でも取り組みが進んでいますので、理工学部としてもそれに応じて、独自指標の設定等を行うことを期待しています(E)
- ・ 全体として順調に推移していると思います。
- ・ A-6 の「周知・公表方法」についても、充実した支援内容なので、「履修心得」に記載があってもよいように思います。(G)
- ・ 各方針において適切性の検証体制が明確になっていることが評価できます。(H)

2018年度 自己点検・評価 【理工学部】

提出日:2019年2月22日

項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)
変更内容とその理由	<p><変更内容> A 票変更点記述シート(別紙1)のとおり</p> <p><変更理由> 各学部の検証、入試内容の変更および新規入試制度導入に伴う変更 ※各学部のアドミッション・ポリシーは、大学のアドミッション・ポリシーとして入試委員会で検証しているため、全学共通で別紙のとおり変更</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針
変更内容とその理由	<p><変更内容> 就学支援の中の TA・RA・SA・メンターの活用を TA・LA・RAの活用に変更</p> <p><変更理由> 見出しと内容の整合性をとるため</p>
項目名	
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p><変更理由></p>